

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070300688
法人名	株式会社 ウキシロケアセンター
事業所名	グループホーム いこいの里中原
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市戸畑区中原西2丁目7-8 (電話) 093-873-3151

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年10月26日	評価確定日	平成21年12月10日

【情報提供票より】(平成21年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 12.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての1階～3階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)21,500円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有(6年間)	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (10月15日現在)

利用者人数	15 名	男性	4 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池園医院 / 戸畑けんわ病院 / 戸畑共立病院 / 牧山中央病院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームいこいの里中原はJR九州工業大前が近く、閑静な住宅地に立地している。事業主体である(株)ウキシロケアセンターは、中原を含め「いこいの里」として4つのグループホームを運営し、その他に住宅型有料老人ホーム・介護付有料老人ホームも運営し、高齢者ケアにおける経験と実績を確立している。グループ運営の方針としては、「家庭の延長線である施設」を目指し、グループホームとしては、「人へのやさしさ、相手の立場に立って考える、もし自分なら、もし家族ならどうするか、どうしてほしいか」をケアやサービス提供の基本方針として、家庭的な雰囲気づくり、笑顔を引き出すようなケアを管理者・職員共に日々実践している。開設4年目を迎え、地域との交流も町内会への加入による地域行事への参加やゴミ収集場の清掃、地元の薬局や米屋・スーパーの利用など日々高まってきている。母体の法人のバックアップと人材育成のもと、運営推進会議・職員会議を有意義な機会としてとらえ、入居者がよりよく生きる為のケアやサービス提供に最も適切な方法を常に検討し支えているグループホームである。食事も旬の食材を使った季節感のある内容となっており、何れも入居者個々の人格を認め、優しく寄り添っているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価を受けて更に地域との連携に取り組んでいる。次年度は町内会の組長を担当し、地元の消防団との連携を強化していきたいと考えている。また、介護計画においては、短期目標達成に向けて、日々のモニタリングを実施する書式を作成し、日々のケアやサービス提供の充実に図っている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>まず管理者が全体的な評価に取り組み、たたき台を作成し、各職員に渡し、自己評価の理解を育み、必ず意見を出すように働きかけている。これにより、日頃のケアやサービス提供を振り返り、新たな気づきや改善を見出し自己評価の意識づけを積極的に行っている。</p>
	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>定期的に2ヶ月毎に開催している。行事報告や研修報告・事故報告・ヒヤリハットの報告を行い意見をいただき、食中毒・熱中症・インフルエンザ・法改正などタイムリーな情報も提供し、多彩なテーマで意見交換を行い、会議が有意義なものとなるように努めている。また、職員の人事や離職防止についても報告しており、オープンな経営姿勢が確認できた。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>毎月のお便りで意見をお尋ねしている。また、面会時には必ず声かけを行い、家族とのコミュニケーションを高め、何でも言っていただけ関係を育んでいる。入居後に入居者より、職員の対応に関する意見をいただくなど、意見や苦情があった場合には改善を行っている。また、ホーム内の装飾などは、家族の意見を取り入れ、高齢者にふさわしく季節感溢れるものになっている。今年度は、家族との関係を更に高めるために忘年会及び家族会を開く計画がある。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、次年度は組長を担当する予定である。地域との連携は、地域の社会資源とのネットワーク図があり、目指す連携の姿を明確に打ち出している。日常的な地域との交流は、地域行事への参加やホーム玄関での祇園祭りのお払い、ゴミ出し日の入居者との清掃活動、地元の薬局・米屋・スーパーでの買物など、地域との顔なじみの関係を大切に今後とも積極的に取り組んでいきたいと考えている。また、住宅地に位置しているため、地域の方が気軽に立ち寄りいただけるような取り組みも検討していく必要があると考えている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「家庭の延長線である施設」「自分の親だったらどうするか」という介護理念のもと、「介護を通し真の人間性を追及することにより社会に貢献する」を理念として掲げ、地域との連携を社会に含まれているものとして独自の理念をつくりあげている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	ホーム内の新人教育に理念を取り入れ、その機会に新人担当職員も理念を共有し、日々のケアの実践に取り組んでいる。ミーティングなどでも、理念について話し合う機会を設け、日々のケアやサービス提供において理念の原点に立ち返るように取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	町内会に加入しており、次年度は組長を担当する予定である。地域との連携は、地域の社会資源とのネットワーク図があり、目指す連携の姿を明確に打ち出している。日常的な地域との交流は、地域行事への参加やホーム玄関での祇園祭りのお払い、ゴミ出し日の入居者との清掃活動、地元の薬局・米屋・スーパーでの買物など、地域との顔なじみの関係を大切に今後とも積極的に取り組んでいきたいと考えている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	まず管理者が全体的な評価に取り組み、各職員に渡すことで自己評価の理解を育み、必ず意見を出すように働きかけている。これにより、日頃のケアやサービス提供を振り返り、新たな気づきや改善を見出し、自己評価の意識づけを積極的に行っている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	定期的に2ヶ月毎に開催している。行事報告や研修報告・事故報告・ヒヤリハットの報告を行い意見をいただき、食中毒・熱中症・インフルエンザ・法改正などタイムリーな情報も提供し、多彩なテーマで意見交換を行い、会議が有意義なものとなるように努めている。また、職員の人事や離職防止についても報告しており、オープンな経営姿勢が確認できた。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム いこいの里 中原

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	市主催の入居者対象の敬老会への参加や研修会などに参加している。介護保険申請時などで行政の担当者やケースワーカーと顔なじみの関係を築いている。事故報告も随時行い、ホームとしての考え方や対応を報告している。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	日頃より北九州市の「みと・らいと」と連携を図り、研修に参加し見識を高め、適切な対応ができるように取り組んでいる。日常生活自立支援事業や成年後見制度については資料を揃え、職員の理解を育んでいる。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月、担当者が「いこいの里中原通信」にて、手書きで介護目標・健康状態・診察の結果・生活状況・夜間の睡眠状況を記入し、行事の際の個人の写真を郵送している。その際、金銭管理の報告として、預かり帳のコピーを同封している。また、行事の案内も行い、入居者の暮らしがわかるように取り組んでいる。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	毎月のお便りで意見をお尋ねしている。また、面会時には必ず声かけを行い、家族とのコミュニケーションを高め、何でも言っただけの関係を育んでいる。入居後に入居者より、職員の対応に関する意見をいただくなど、意見や苦情があった場合には改善を行っている。また、ホーム内の装飾などは、家族の意見を取り入れ、高齢者にふさわしく季節感溢れるものになっている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	異動や離職は入居者へのダメージを考慮し、最小限に抑える努力をしている。やむを得ない職員の異動や離職の際は、入居者への対応に配慮し、挨拶を行うなど入居者の立場に立ち、職員が寄りそうなどダメージを防ぐように取り組んでいる。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	男女雇用機会均等法を遵守し採用を行っている。採用に当たっては、やさしさや思いやりのある方を重視している。毎月の会議は、職員が働きがいのある職場として勤務できるように、職員の思いや不満を率直に出せるように取り組んでいる。また、レクリエーションなどで職員の特技や能力が発揮できるように取り組み、資格取得もバックアップしている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム いこいの里 中原

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	法人の社員ミーティング・事業所でのミーティング・管理者ミーティングなど研修や勉強会の機会ある毎に人権教育・啓発活動に取り組んでいる。また、人権に関しては、特に言葉に気をつけ、関連する書物の購入により、「上からモノを言わない」など身近な事例を通して勉強会の資料とし人権に関する意識を高めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	法人内外の勉強会・研修への参加を促しスキルアップを図っている。新人の場合は、法人で1ヶ月の基礎研修を行い、ホームではチューター制度を採用しており、教育担当員をおき、OJTを充実させている。今後は、職員の段階に応じた教育プログラムを検討していきたいと考えている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会に加入し、定期的に2ヶ月に1回開催される勉強会や研修会に管理者・職員が参加できるように取り組んでいる。この勉強会や研修会を通じて、グループホーム間の情報交換を行い、連携を高めると共に、職員が広い視野を持って、日々のケアやサービス提供ができるように取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	本人と家族にホームの見学を数回行っていただき、ホームの細部まで、あらゆる面を見ていただいている。入居者が決まった場合は、ホームに慣れるまで家族の電話や訪問を依頼し、安心して入居できるように支援している。また、入居後は、入居者の性格・ADL・診断表・情報提供表でアセスメントを行い、介護計画を暫定的に立て、職員間で統一したケアやサービスを提供できるように努めている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は入居者の料理・縫い物など高齢者の経験や知恵・助言を受けとめ、暮らしの中で活かせるように取り組んでいる。物忘れがひどくなったと嘆かれるのを傾聴し、入居者と同じ目線で寄りそうなど、共に支え合う場面づくりを心がけている。また、過度の支援をしないようにし、入居者の歩く力を信頼し車いすの使用は最小限にとどめるなど入居者の残存能力の維持に努めている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム いこいの里 中原

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントツールを用い、希望・意向などを毎年1回チェックしている。また、日々の生活の中では、家族の面会の際に家での暮らしを家族に確認している。意向などの把握が困難な場合は、入居者に寄りそって推察しながら支援している。調査日には、食事を摂取せず、不安そうに徘徊する入居者に職員が寄りそい、スキンシップを取っておられた。</p>		<p>一人ひとりの、これまでの生活歴など人生史が確認できれば、現在の入居者の気持ちに寄りそい、実感・共感を込めて理解することができると考えられる。そのことが認知症のケアの感性を高めることにつながると考えられるので、今後の取り組みを期待したい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>詳細なアセスメントシートを使い、本人や家族の意向をふまえ、担当者会議を行い作成している。介護計画は入居者自身が主人公となった表現となっており、言葉も優しい表現で具体的な内容となっており、支援業務につながり評価に結びつく内容となっている。</p>		<p>1人の入居者の状態を把握する場合に、ファイルが3冊にわたり把握しにくい状況がある。支援経過等、それぞれは理解しやすいため、ファイリングの工夫等の検討に期待したい。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1回の見直しを行っている。状況が変化した場合、その都度、見直しを行い新たな計画作成を行っている。看護実施表・担当者会議・家族との話し合い・モニタリングが充実し、次の計画につながっている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>「季節の洋服が買いたい、買い物に賑やかな中央町に行きたい」などの希望や冠婚葬祭に関する要望などがあれば、即実行は無理でも必ず希望にはできる限り応えている。身寄りのない方に知人の面会があれば、本人に伺ってから面談を楽しんでいただいている。また、法人の広域なネットワークの活用により、楽しみごとなどの企画もある。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者の希望に応じて、在宅時の医師に受診できるように取り組んでいる。ホームとしては、近所のかかりつけ医から2週間ごとに往診があり、また、24時間の連絡体制を整え、安心・安全な連携を築いている。また、受診や往診の際には家族へ診察内容を書いて報告している。今後の医療連携により更なる健康・疾病予防を期待したい。</p>		

グループホーム いこいの里 中原

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	事業所内でできること、できないことを事前に提示し、本人・家族の要望をもとに、かかりつけ医・家族・運営者と話し合い、今後の方針について話し合う機会をつくっている。入居時に重度化や終末期に関する説明を行い、家族も納得しているが、ホーム在籍年数と共にキーパーソンも高齢化や世代交代などがあり、介護計画の見直しの際に家族に再度確認する必要があると考えられる。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	法人での虐待防止委員として勉強した内容を現場に伝達し、日々の行動の見直しを行っている。職員の対応の仕方など、適切でない場合は、職員間でお互いに注意するように心がけている。名前の呼び方は、あらかじめ、ふさわしい呼び方を家族に聞くなど配慮がある。また、入居者が電話する場所は話し声が聞こえないように工夫している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	寝る前と朝にお参りする方、朝一番に新聞の整理をする方、昼夜逆転し12時間の誤差のある方などの本人の生活の流れや優先度を大事にしている。また、その日のレクリエーションとして、買い物・ドライブ・足浴などを提案し、無理強いせず、本人のペースを大切にしている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食材は必ず旬の物を用い、季節感を味わっていただくように献立を作成している。献立は職員が入居者に食べたい料理を聞きながら作成している。買物や野菜の下ごしらえなどの準備・後片づけは入居者と職員が共に行っている。食事中は食材や味付けを話題にして和やかな雰囲気であった。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴日は決めているが、本人の希望を優先している。入浴を拒否される方には、誘う時間や職員を変えるなど工夫している。拒否する場合は、無理強いせず、翌日に入浴日を変更するなど柔軟に対応できるように取り組んでいる。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム いこいの里 中原

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	長年、家事に携わった入居者は食器洗いは自分の領域と考え、職員を指揮したり、ゴミの分別とゴミ出しは自分の役割など本人が果たす役割を担っていただいている。日々の暮らしの中で買物・掃除など自分の役割を發揮できるように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日常的な外出として、天気のよい日はホーム周囲を散歩している。1対1の対応であり、職員が3名交代で同行している。また、近所への買物やスーパーへ買物を兼ねてドライブなども積極的に取り組み、ホームに閉じこもらない暮らしを支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	鍵はかけない方針である。玄関に続くドアは開閉時に音がしたり、エレベーターの昇降はゆっくりとしか作動できないようになっている。管理者・職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、常に職員が目配り・気配りを行っている。入居者に外出の気配がある場合には、さり気なくついていき、傾合いをみて帰るように促している。居室の鍵は内・外側から開閉できるため、中には入居者自身が自室の鍵をかけることで安心感を得られるなどプライバシーにも配慮している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年に2回消防署立会いで訓練を行っている。避難方法など現場を見てもらい、助言・指導をいただいている。風水害による食材の調達不能も考慮し、長持ちする根菜類やカレールウなどは常備している。今後、避難訓練に関しては地域の人の協力を得られるように働きかけていく予定である。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	本人の体調や嚥下状態で、常食かソフト食などの対応を行い、また、調理の段階でも減塩食など工夫し提供している。入居して間もない方で介助が必要な方も段階的に自力摂取できるように支援している。食事量・水分量は記録され、水分量は目標量を設定し必要な量の確保に努めている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム いこいの里 中原

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	水屋や食器棚など、どこの家にもあるキッチン風景がある。調理の音や匂いがする家庭的なリビングには椅子やソファが好みに応じて使えるよう配置してある。また、足元はすっきりと入居者が通るのを妨げがないよう配慮している。住宅地で騒音もなく換気も行き届いている。玄関は職員が季節の花や季節行事の飾りつけなど、その時期にふさわしい飾りつけを行っている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	家族と協力して、その方の趣味や好みを活かした部屋づくりを行っている。使い慣れた家具が持ち込まれ、毎日のスケジュールが書き込まれたカレンダーや家族の一人ひとりのスナップを編集した額などが飾られ、個性的な居心地のよい自分の住まいとなっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			